

## 2. 環境問題への関心(問2)

### 2-1 関心ある環境問題分野

関心の高い環境問題は、「地球温暖化」「オゾン層の破壊」「大気汚染」「世界的な森林の減少」「海洋の汚染」「砂漠化」「廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進」等である。一方、「悪臭」「地盤沈下」「騒音・振動」に対しては関心が低い。

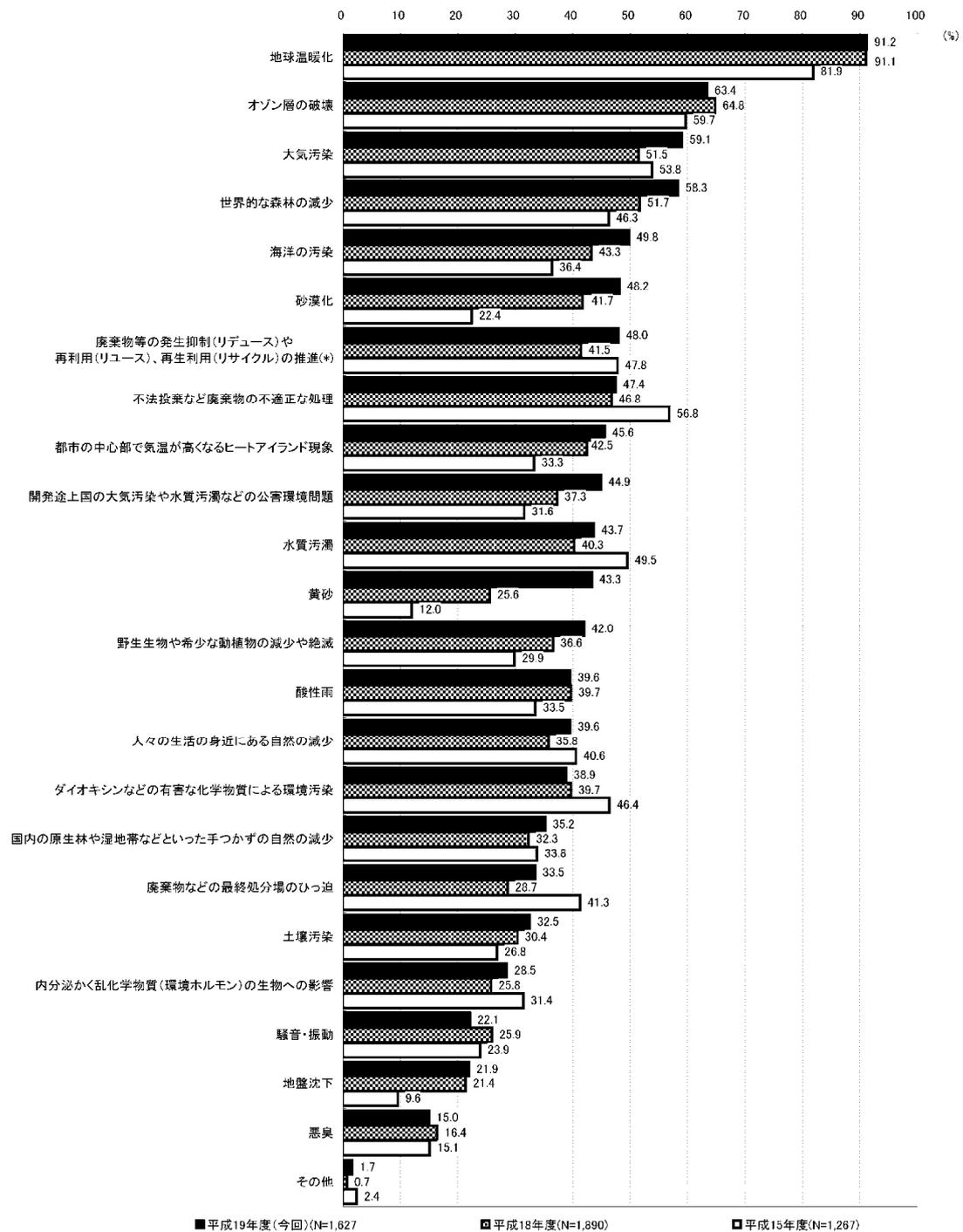
環境問題への関心の有無を尋ねたところ、最も関心の高い項目は「地球温暖化」(91%)、次いで「オゾン層の破壊」(63%)、「大気汚染」(59%)、「世界的な森林の減少」(58%)の順であり、大気汚染を除くといずれも地球規模での環境問題である。次いで多くの人に関心を示した項目は、「海洋の汚染」(50%)、「砂漠化」(48%)、「廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進」(48%)である。

一方、関心の低い項目は「悪臭」(15%)、「地盤沈下」(22%)、「騒音・振動」(22%)である。

前々回から前回、今回と関心度が高くなっている項目は、以下の10項目であり、前回調査と比較すると、特に「黄砂」への関心が高くなっている。

- 「地球温暖化」
- 「世界的な森林の減少」
- 「海洋の汚染」
- 「砂漠化」
- 「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」
- 「開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題」
- 「黄砂」
- 「野生生物や希少な動植物の減少や絶滅」
- 「土壌汚染」
- 「地盤沈下」

図表 2-1 関心のある環境問題分野(全体、時系列:複数回答)



注) \*印は、前々回の調査と設問が異なる。

性別にみると男性より女性の方が多くの項目について高い関心を持ち、特に「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染」(男性 32%、女性 46%)、「地盤沈下」(男性 17%、女性 27%)、「悪臭」(男性 12%、女性 18%)などで差が大きい。

年齢別にみると60代70代はほとんどの環境問題に関心を示している。これを全体よりも10%以上高い項目について整理すると以下のようである。

- 60代  
「開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題」  
「酸性雨」  
「国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少」
  
- 70代以上  
「オゾン層の破壊」  
「大気汚染」  
「不法投棄など廃棄物の不適正な処理」  
「黄砂」  
「酸性雨」  
「土壌汚染」

一方、50代は他の世代より環境問題に対する関心が低い。

職業別にみると、専業主婦、無職、その他において環境問題への関心が高く、会社役員・会社経営は「地球温暖化」、「オゾン層の破壊」、「海洋の汚染」、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理」について6割以上の高い関心を持つものの、他の項目についてはやや関心が低い傾向にある。会社員、公務員は他の職業より環境問題への関心がやや低い傾向がある。

図表 2-2 環境問題の関心(性別、年齢別、職業別:複数回答)

単位: %

	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,627	795	832	274	332	266	308	306	141	16	95	28	35	460	73	18	62	211	387	182	60
地球温暖化	91.2	89.2	93.1	88.7	92.2	91.0	89.9	91.8	95.7	81.3	90.5	92.9	80.0	89.1	94.5	94.4	87.1	92.4	93.8	91.2	95.0
オゾン層の破壊	63.4	61.5	65.3	54.0	59.3	63.9	64.3	69.0	76.6	81.3	62.1	75.0	68.6	58.5	56.2	72.2	58.1	63.0	64.9	70.3	73.3
大気汚染	59.1	54.2	63.7	61.7	63.3	53.8	50.0	61.1	69.5	43.8	54.7	75.0	48.6	54.1	56.2	66.7	51.6	59.7	66.9	58.2	65.0
世界的な森林の減少	58.3	55.3	61.2	55.1	59.9	55.3	50.3	67.0	65.2	50.0	57.9	75.0	54.3	53.5	46.6	61.1	53.2	56.9	62.5	64.8	70.0
海洋の汚染	49.8	48.9	50.7	45.6	46.7	52.3	45.8	55.2	58.2	62.5	53.7	75.0	60.0	43.3	45.2	55.6	46.8	47.9	51.7	56.0	56.7
砂漠化	48.2	48.9	47.5	44.5	50.3	47.7	40.9	53.6	55.3	50.0	49.5	57.1	48.6	42.8	52.1	61.1	45.2	47.9	49.1	54.4	53.3
廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進	48.0	39.7	55.9	48.2	48.2	46.6	41.6	53.9	51.1	56.3	40.0	71.4	40.0	37.4	35.6	27.8	54.8	57.8	56.3	50.5	51.7
不法投棄など廃棄物の不適正な処理	47.4	45.5	49.3	37.2	40.7	51.1	44.8	56.9	61.7	43.8	48.4	67.9	65.7	37.6	43.8	38.9	43.5	44.1	51.4	61.5	56.7
都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象	45.6	37.9	53.0	37.2	47.9	45.5	43.8	52.0	46.8	25.0	41.1	57.1	42.9	39.8	41.1	44.4	37.1	49.3	53.7	47.3	43.3
開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題	44.9	44.3	45.6	44.5	39.8	42.1	41.6	55.2	48.2	50.0	51.6	60.7	51.4	36.5	43.8	50.0	46.8	41.7	50.4	49.5	46.7
水質汚濁	43.7	40.8	46.5	44.2	44.3	39.5	35.4	50.3	53.2	62.5	40.0	60.7	48.6	36.3	41.1	55.6	38.7	42.7	46.8	53.3	50.0
黄砂	43.3	41.8	44.8	39.1	39.2	40.6	41.2	51.3	53.9	25.0	42.1	50.0	48.6	35.2	41.1	55.6	32.3	41.7	50.9	52.7	45.0
野生生物や希少な動植物の減少や絶滅	42.0	38.1	45.7	45.6	46.4	42.1	36.0	43.5	34.0	37.5	45.3	60.7	37.1	37.0	39.7	50.0	41.9	44.5	43.9	42.9	46.7
酸性雨	39.6	37.7	41.3	33.9	30.4	42.1	35.4	49.7	54.6	31.3	42.1	50.0	37.1	30.9	32.9	33.3	37.1	36.5	45.2	51.6	51.7
人々の生活の身近にある自然の減少	39.6	33.3	45.6	39.8	38.3	38.3	33.1	47.7	41.1	31.3	38.9	57.1	31.4	31.1	35.6	38.9	41.9	46.9	43.7	43.4	43.3
ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染	38.9	31.6	45.9	32.5	39.5	45.1	29.5	44.4	46.8	50.0	34.7	53.6	48.6	29.6	30.1	50.0	35.5	39.8	50.4	36.8	41.7
国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少	35.2	30.6	39.7	34.7	29.2	36.5	29.2	45.8	38.3	37.5	36.8	50.0	34.3	27.0	32.9	27.8	45.2	37.0	37.5	40.7	46.7
廃棄物などの最終処分場のひっ迫	33.5	30.4	36.4	28.5	33.1	33.8	29.2	38.2	42.6	31.3	28.4	39.3	42.9	27.2	31.5	27.8	33.9	31.8	37.2	42.3	41.7
土壌汚染	32.5	28.7	36.2	28.8	32.5	32.0	26.0	37.9	43.3	37.5	24.2	35.7	34.3	25.7	21.9	44.4	35.5	31.3	39.3	37.9	45.0
内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)の生物への影響	28.5	23.8	33.1	24.1	25.6	28.6	26.3	34.6	35.5	25.0	26.3	42.9	28.6	19.8	32.9	38.9	21.0	28.9	34.6	33.5	36.7
騒音・振動	22.1	19.0	25.1	24.5	19.3	23.7	15.9	25.2	28.4	6.3	21.1	42.9	14.3	16.1	9.6	16.7	21.0	19.4	28.9	26.9	38.3
地盤沈下	21.9	17.1	26.6	19.0	19.6	22.2	19.5	27.1	27.0	6.3	24.2	21.4	11.4	15.9	11.0	27.8	19.4	21.8	30.5	24.7	26.7
悪臭	15.0	11.9	17.9	18.2	16.3	13.9	8.8	16.0	19.1	6.3	12.6	14.3	2.9	12.2	8.2	16.7	16.1	15.6	19.4	14.3	28.3
その他	1.7	2.0	1.3	1.1	2.1	3.0	1.3	1.0	1.4	0.0	4.2	3.6	2.9	1.1	1.4	5.6	1.6	1.9	1.3	1.6	1.7

地域別では、北海道・東北地方、中部地方、九州地方では関心を持つ比率が全体を下回る項目が多く、近畿地方や中国・四国地方は全体を上回る項目が多い。

関心を持つ比率が全体より高い項目(5%以上)について地域別に整理すると、

- 関東地方では「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」といった都市環境問題に関心が高い
- 中国・四国地方では「海洋の汚染」、「不法投棄など廃棄物の不適切な処分」、「水質汚濁」などの海域を含む環境問題が多くを占めている
- 北陸地方では、「砂漠化」、「黄砂」、「酸性雨」など
- 近畿地方では「不法投棄など廃棄物の不適切な処理」、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」、「黄砂」

などとなっている。

都市規模別では、「野生生物や希少な動植物の減少や絶滅」以外の項目は、都市規模が大きいほど関心が高くなる傾向がある。関心を持つ比率が全体より高い項目(5%以上)は、政令指定都市が「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」、「酸性雨」に対し、町村では「野生生物や希少な動植物の減少や絶滅」への関心が高くなっている。

図表 2-3 環境問題の関心(地域別、都市規模別:複数回答)

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村
調査数(N)	1,627	219	489	86	237	265	143	188	317	809	350	151
地球温暖化	91.2	90.0	92.6	93.0	93.7	87.5	93.7	88.3	91.2	91.8	90.6	89.4
オゾン層の破壊	63.4	56.2	65.8	67.4	63.3	61.5	65.7	64.9	64.0	64.9	60.0	62.3
大気汚染	59.1	54.3	61.8	64.0	58.2	56.6	60.8	58.5	63.7	58.0	59.7	53.6
世界的な森林の減少	58.3	53.4	60.3	62.8	55.7	61.1	55.9	58.0	58.7	57.7	58.9	59.6
海洋の汚染	49.8	45.2	51.3	54.7	46.8	47.5	57.3	50.5	53.0	48.5	51.7	46.4
砂漠化	48.2	39.3	51.7	57.0	42.2	49.8	45.5	52.7	46.4	49.3	47.4	47.7
廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進	48.0	45.7	50.7	46.5	40.9	50.6	51.7	46.8	48.6	47.3	50.9	43.7
不法投棄など廃棄物の不適正な処理	47.4	44.7	48.3	47.7	43.0	52.8	53.1	42.0	48.9	47.2	47.1	46.4
都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象	45.6	32.0	54.2	37.2	43.5	51.7	39.9	41.5	53.0	47.1	37.4	41.1
開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題	44.9	37.4	49.5	43.0	45.1	42.3	47.6	44.1	43.5	45.6	43.4	47.7
水質汚濁	43.7	43.4	43.1	30.2	44.7	46.4	55.9	37.2	42.9	43.5	45.1	43.0
黄砂	43.3	33.8	36.0	65.1	48.1	51.3	43.4	46.3	44.8	41.4	46.6	43.0
野生生物や希少な動植物の減少や絶滅	42.0	37.4	41.9	46.5	42.6	42.3	44.1	42.6	43.5	40.3	41.1	49.7
酸性雨	39.6	29.7	41.1	46.5	39.2	42.6	42.7	37.8	44.8	39.6	36.3	36.4
人々の生活の身近にある自然の減少	39.6	38.8	41.7	39.5	37.6	38.1	43.4	36.7	41.0	38.9	40.6	37.7
ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染	38.9	35.6	42.7	38.4	31.2	38.5	44.1	39.4	41.6	39.8	36.3	34.4
国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少	35.2	26.9	37.8	37.2	33.8	37.4	41.3	31.4	33.8	36.6	34.0	33.8
廃棄物などの最終処分場のひっ迫	33.5	23.7	39.5	38.4	30.8	33.2	32.9	31.4	33.8	33.1	34.0	33.8
土壌汚染	32.5	27.9	35.4	27.9	30.8	32.8	37.1	30.9	32.8	31.9	32.3	35.8
内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)の生物への影響	28.5	27.4	30.9	27.9	23.2	29.8	35.0	23.9	28.4	28.7	29.7	25.2
騒音・振動	22.1	17.8	24.1	23.3	22.4	24.2	23.1	17.6	26.5	23.4	17.4	17.2
地盤沈下	21.9	16.9	24.1	31.4	19.8	19.6	23.8	22.3	23.3	21.9	23.1	16.6
悪臭	15.0	13.7	17.6	15.1	15.2	17.0	13.3	8.0	16.7	14.8	14.6	13.2
その他	1.7	0.9	1.2	2.3	1.7	1.9	3.5	1.6	1.9	2.0	1.1	0.7

## 2-2 用語の認知

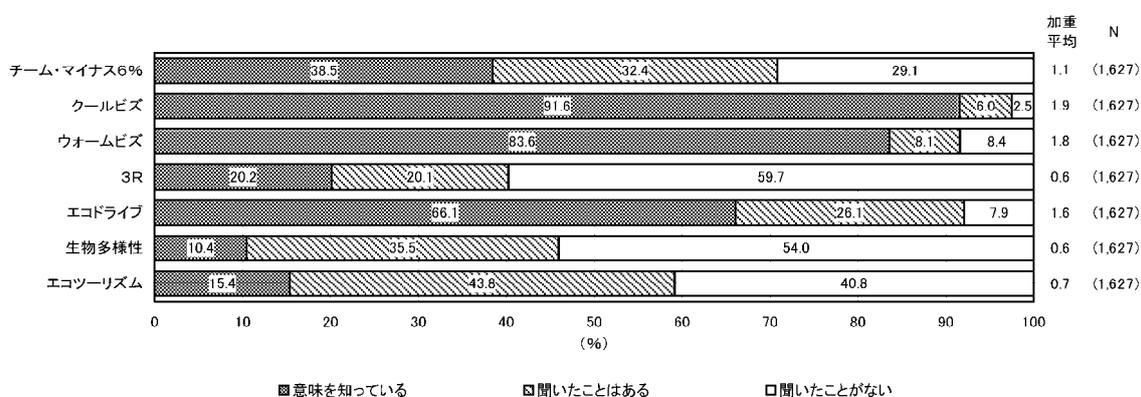
環境問題関連の言葉については、「クールビズ」「ウォームビズ」「エコドライブ」についての認知度は9割を超える。

一方、「3R」、「生物多様性」については、認知度が最も低く、5割以下である。

用語の認知では、「意味を知っている」と答えた人の比率は、「クールビズ」が最も高く(92%)、続いて「ウォームビズ」(84%)、「エコドライブ」(66%)の順である。また「聞いたことはある」まで含めた認知度は、「クールビズ」(98%)、続いて「ウォームビズ」(92%)、「エコドライブ」(92%)といずれも9割を超える。

また、「3R」(40%)、「生物多様性」(46%)で認知度は低い。特に「聞いたことがない」と答えた人の比率は、「3R」(60%)、「生物多様性」(54%)で高い。

図表 2-4 用語の認知(全体)



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-1 チーム・マイナス6%

全体では認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)は約7割となっている。

性別では、男性の方が女性よりも認知度が高く、特に「意味を知っている」割合(44%)が高い。

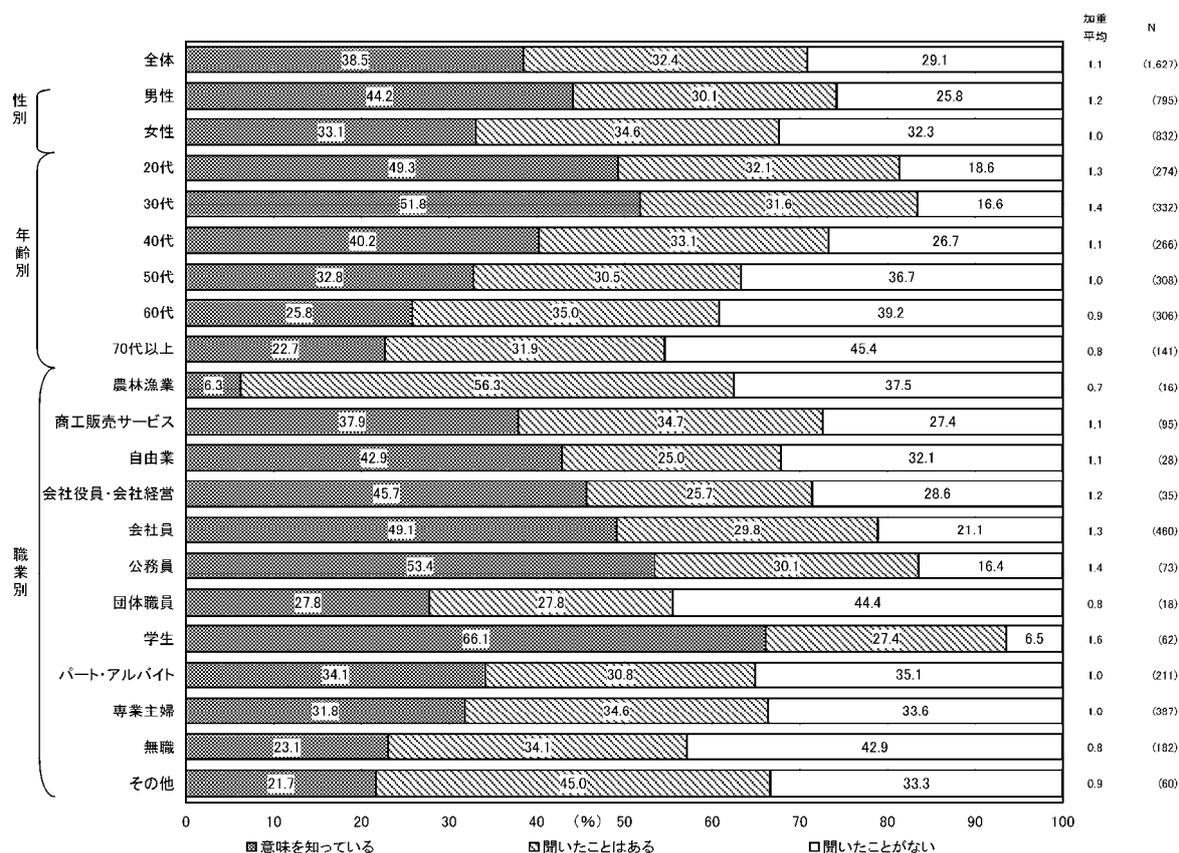
年齢別では、「意味を知っている」と答える人の比率は年齢が若いほど高くなっており、若い世代ほど認知度が高い傾向がみられる。

職業別では、学生、公務員、会社員で「意味を知っている」比率が高く(66%、53%、49%)、認知度も約8割以上を示している。認知度が低いのは農林漁業、団体職員、パート・アルバイト、専業主婦、無職で、認知度は5~6割である。特に農林漁業では「意味を知っている」比率が低い(6%)。

地域別では、認知度にほとんど差はないが、中国・四国地方は「意味を知っている」比率が全体と比較して低い(30%)。

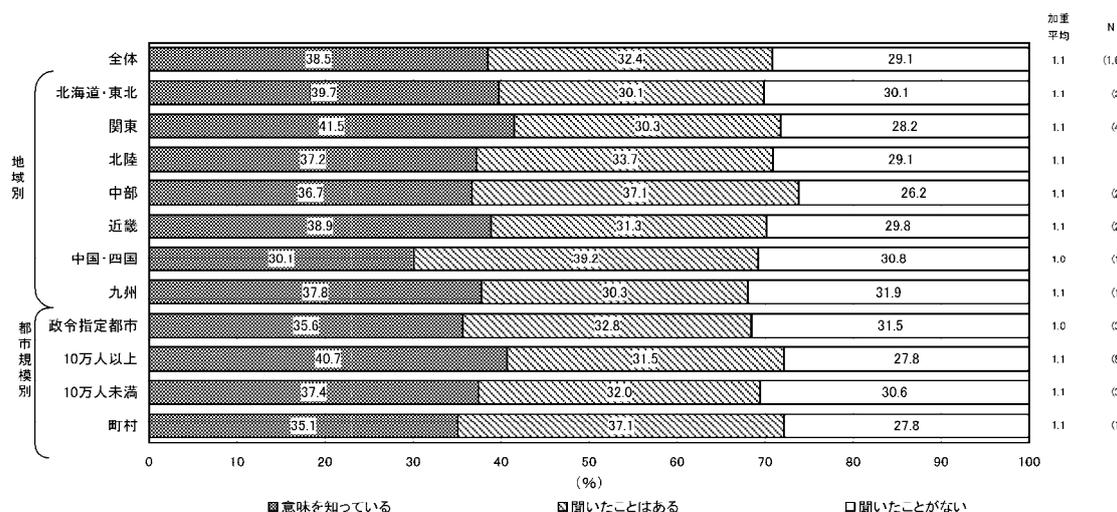
都市規模別では、ほとんど差はみられない。

図表 2-5 用語の認知(チーム・マイナス6%、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-6 用語の認知(チーム・マイナス6%、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-2 クールピズ

全体では認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)は約9割を超えている。

性別では、認知度に差がみられなかった。

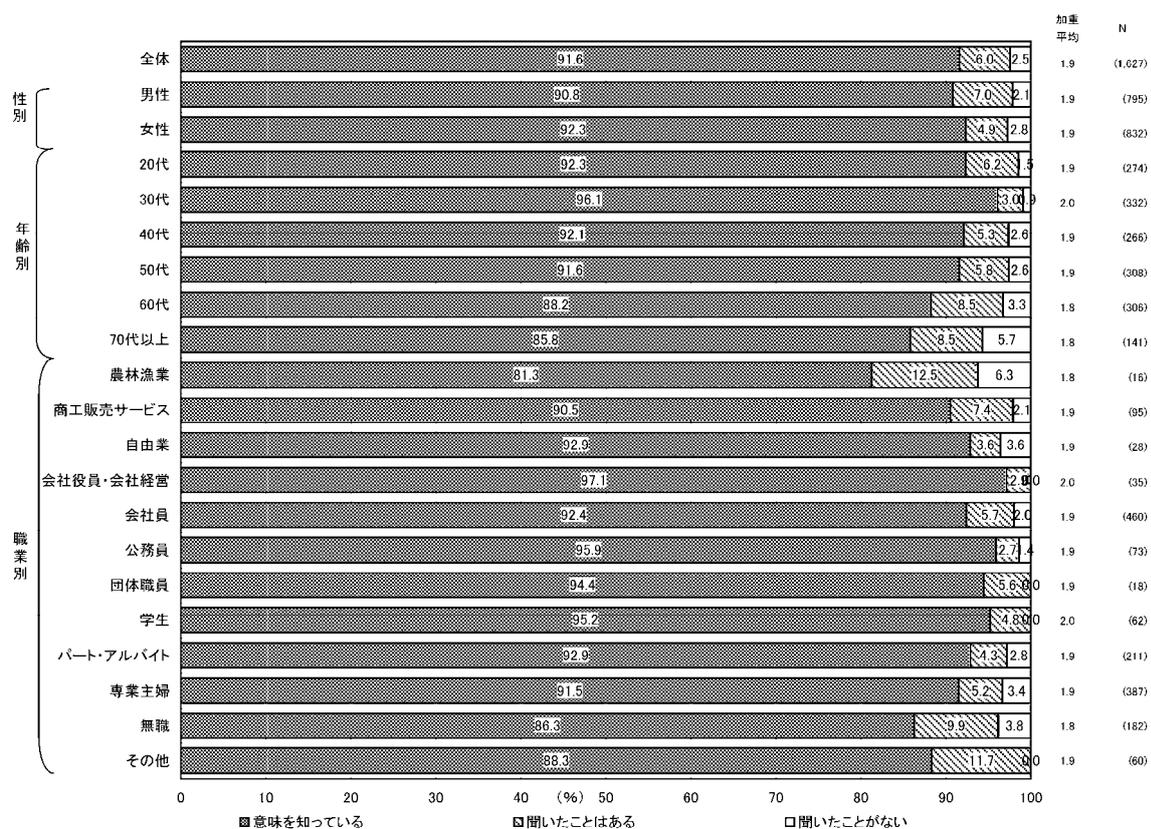
年齢別では、認知度において30代の比率が最も高く(99%)、若い年代ほど認知度が高い傾向が見られるが、いずれの年代も9割以上の高い認知度を示した。

職業別では認知度にほとんど差はないが、会社役員・会社経営、公務員、学生で「意味を知っている」比率が高い(97%、96%、95%)。

地域別では、認知度にほとんど差はみられない。

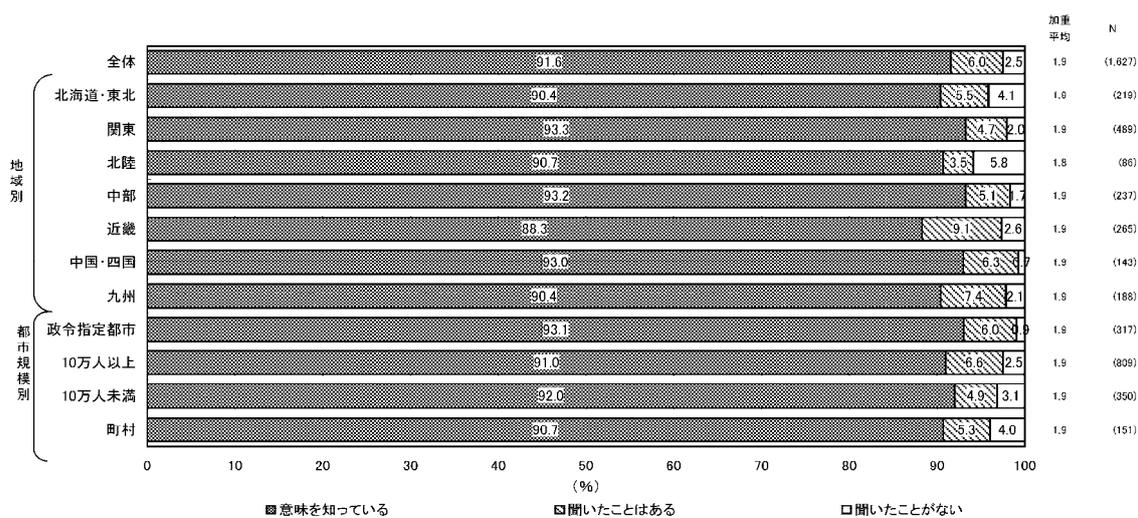
都市規模別では、認知度にほとんど差はみられない。

図表 2-7 用語の認知(クールピズ、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-8 用語の認知(クールピズ、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

### 2-2-3 ウォームビズ

全体では認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)は約9割を超えている。

性別では、認知度に差がみられなかった。

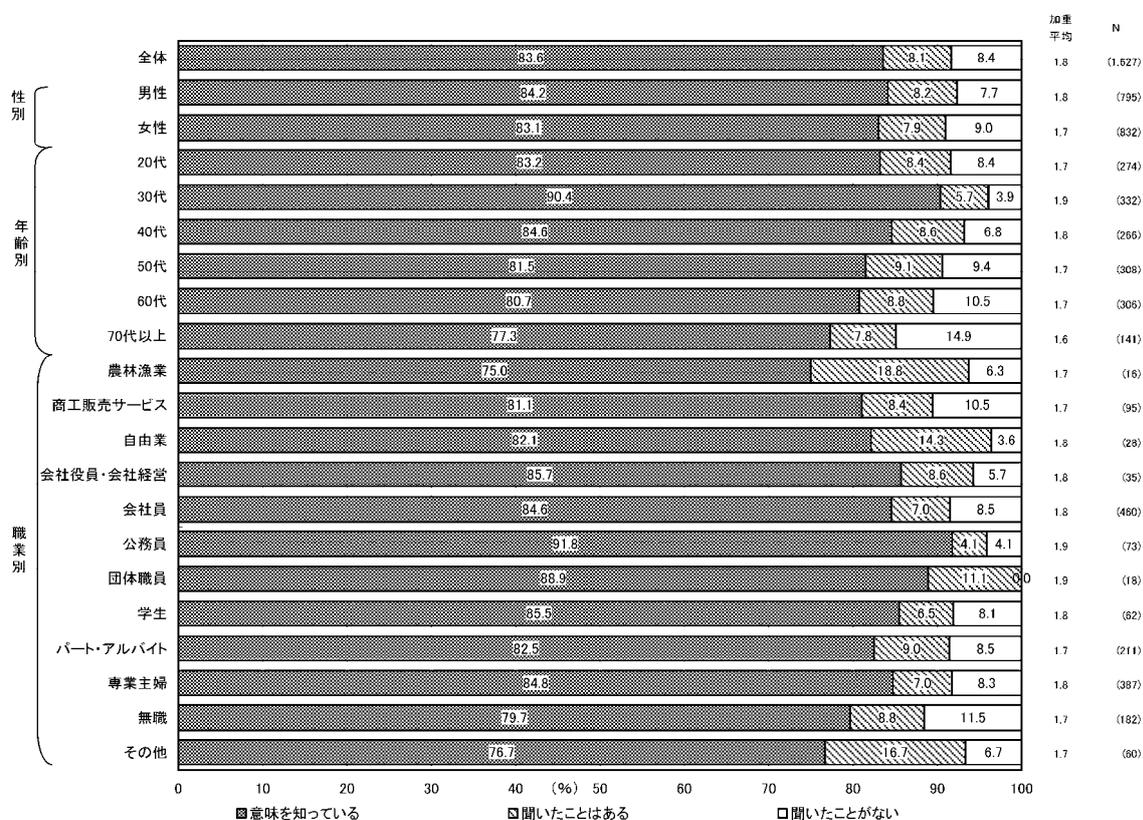
年齢別では、認知度において30代の比率が最も高く(96%)、若い年代ほど認知度が高い傾向が見られるが、70代を除きいずれの年代も9割程度の高い認知度を示した。

職業別では認知度にほとんど差はないが、公務員、団体職員、会社役員・会社経営で「意味を知っている」比率が高い(92%、89%、86%)。

地域別では認知度に差はあまりみられない。

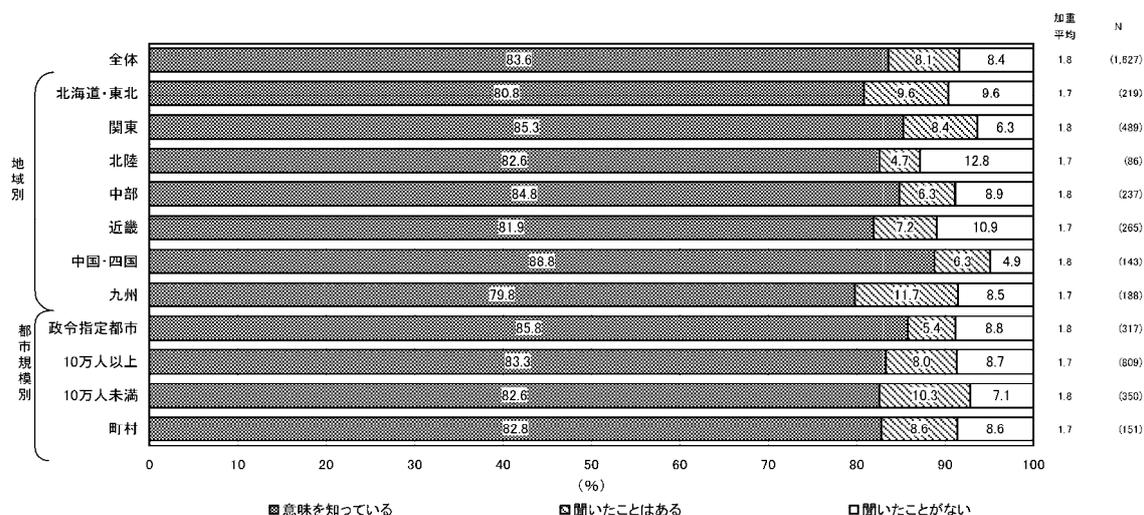
都市規模別では、認知度に差はあまりみられない。

図表 2-9 用語の認知(ウォームビズ、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-10 用語の認知(ウォームビズ、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

### 2-2-4 3R

全体では、「意味を知っている」人の比率は20%で、認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)も40%にとどまった。

性別では「意味を知っている」と答えた人の比率は、男性の方がやや女性を上回る(男性21%、女性19%)。

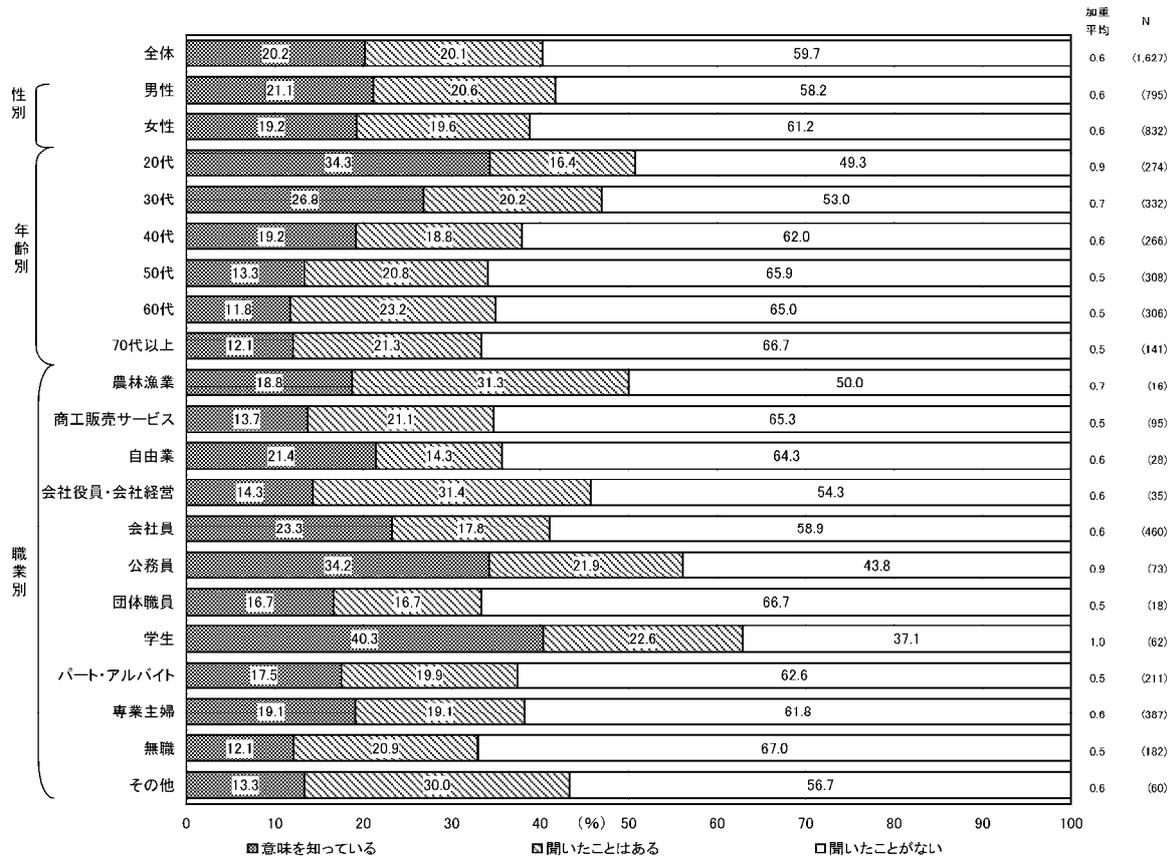
年齢別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は20代が最も高く(34%)、次いで30代(27%)となっており、一方で、60代(12%)、70代以上(12%)で低くなっている。

職業別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は学生が最も高く(40%)、次いで公務員(34%)となっており、無職、その他において低くなっている(12%、13%)。

地域別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は、どの地域も20%前後の比率を示した。

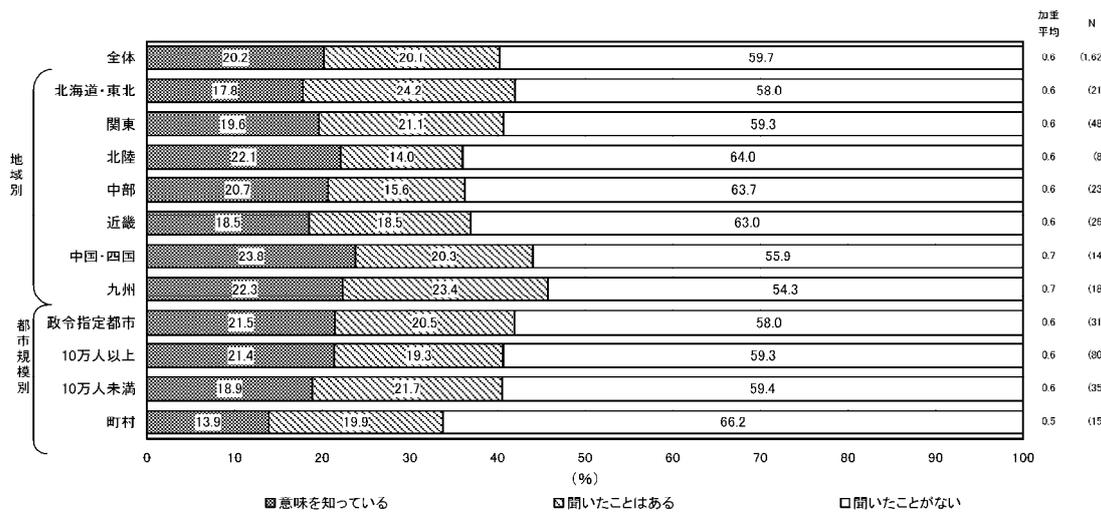
都市規模別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は町村で低く(14%)、規模の大きな都市であるほど比率が高い(政令指定都市22%、10万人以上21%)。

図表 2-11 用語の認知(3R、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-12 用語の認知(3R、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-5 エコドライブ

全体では、「意味を知っている」と答えた人の割合が 66%を示し、認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)も 9 割以上となっている。

性別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は男性方が女性より高い(男性 73%、女性 60%)。

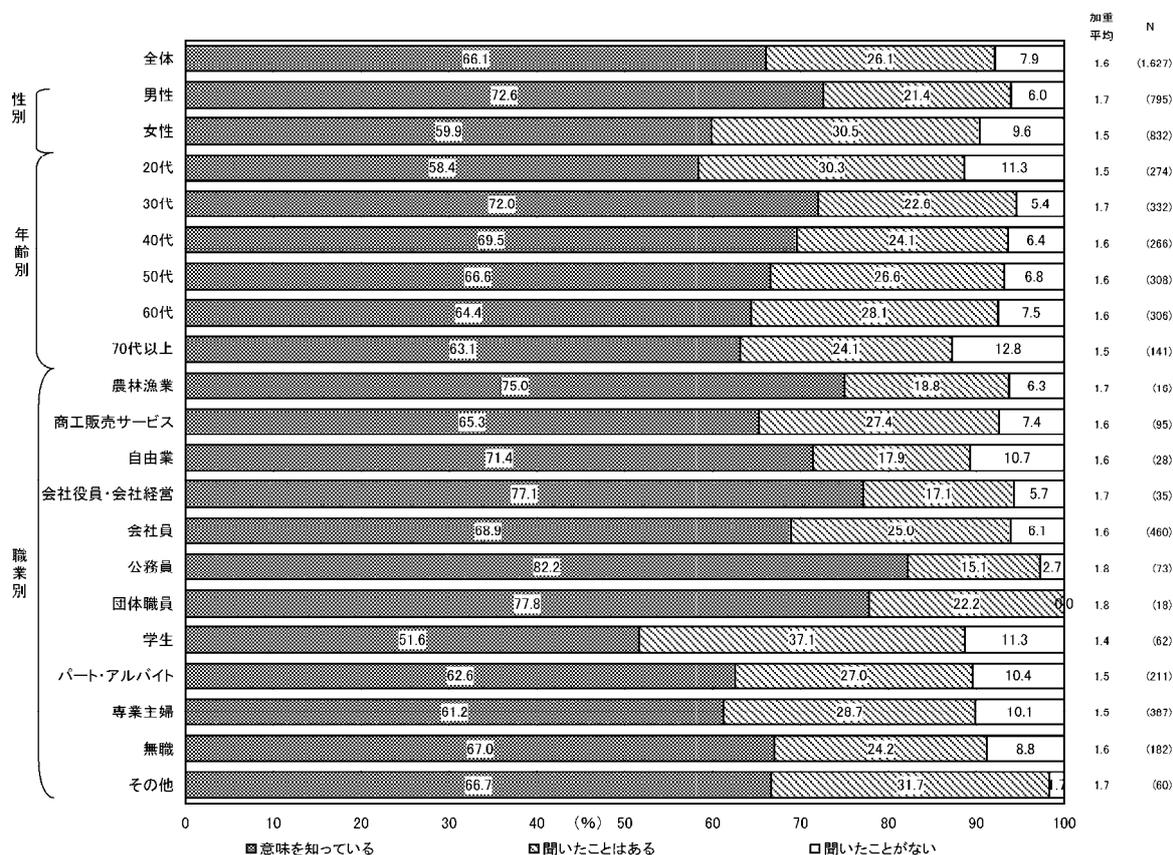
年齢別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は 30 代で高く(72%)、20 代で最も低くなっている(58%)が、全体には年齢が高いほど比率が低くなる傾向がみられる。

職業別では、「意味を知っている」と答えた人の比率が公務員、団体職員、会社役員・会社経営で高く(82%、78%、77%)、学生でもっとも低くなっている(52%)。

地域別では、「意味を知っている」と答えた人の比率が北陸地方、中部地方で高く(72%、72%)、近畿地方が最も低い(57%)。

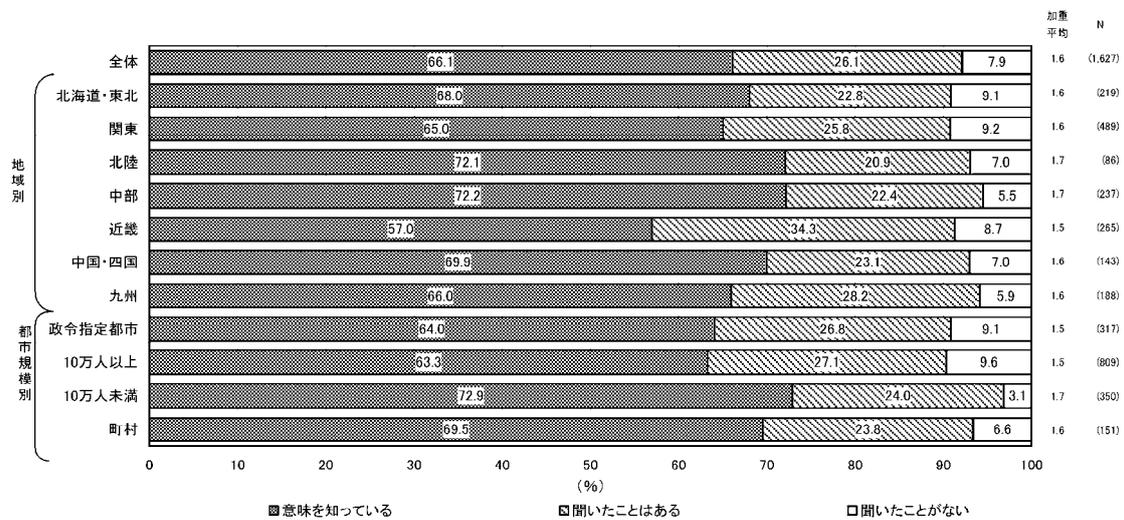
都市規模別では、10 万人未満の都市が最も高い(73%)。

図表 2-13 用語の認知(エコドライブ、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に 2 点、「聞いたことはある」に 1 点を与えて算出した。

図表 2-14 用語の認知(エコドライブ、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-6 生物多様性

全体では、「意味を知っている」と答えた人の比率は10%で、認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)も46%にとどまった。

性別では「意味を知っている」と答えた人の比率は、男性(14%)の方が女性(8%)よりも高くなっている。

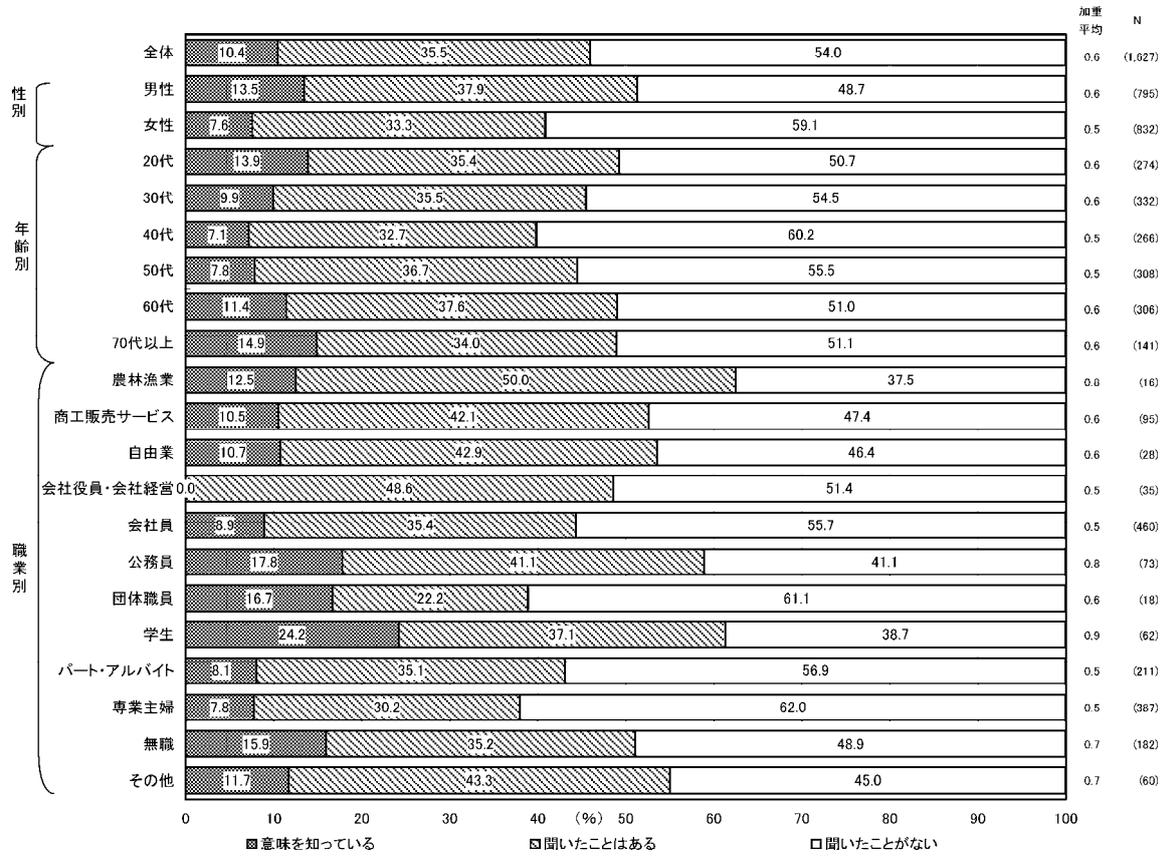
年齢別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は70代以上が最も高く(15%)、次いで20代(14%)となっており、40代、50代で低くなっている(7%、8%)。

職業別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は学生が最も高く(24%)、次いで公務員(18%)となっており、会社役員・会社経営において低くなっている(0%)。

地域別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は北海道・東北地方、中部地方、関東地方でやや高いものの(ともに11%)、大きな差はみられない。

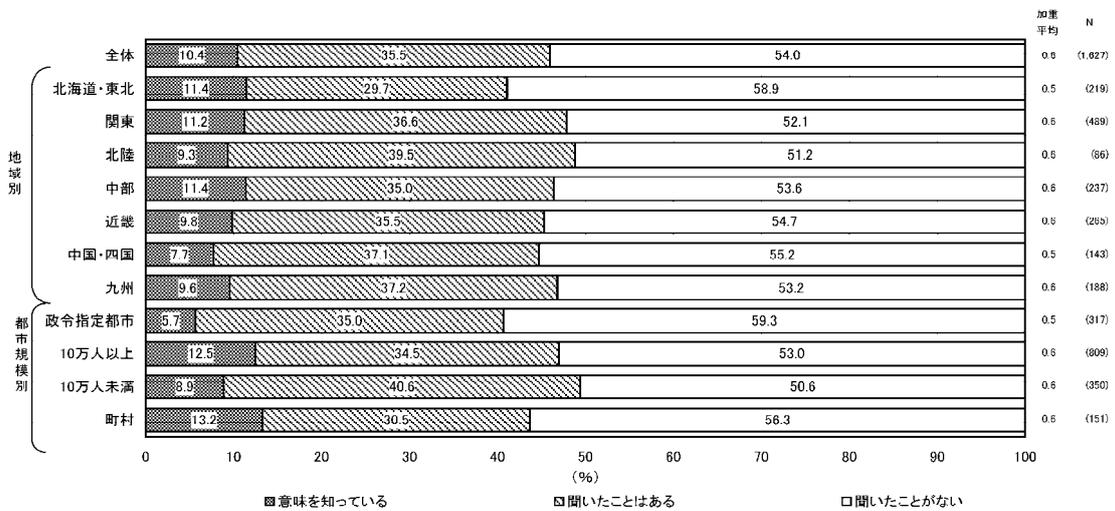
都市規模別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は政令指定都市が最も低く(6%)、町村、10万人以上の都市で高い(ともに13%)。

図表 2-15 用語の認知(生物多様性、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-16 用語の認知(生物多様性、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-7 エコツーリズム

全体では、「意味を知っている」と答えた人の比率は 15%で、認知度(「意味を知っている」「聞いたことはある」の合計)も 59%にとどまった。

性別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は、男性の方が女性よりも高い(男性 18%、女性 13%)が、認知度はほとんど差がみられなかった。

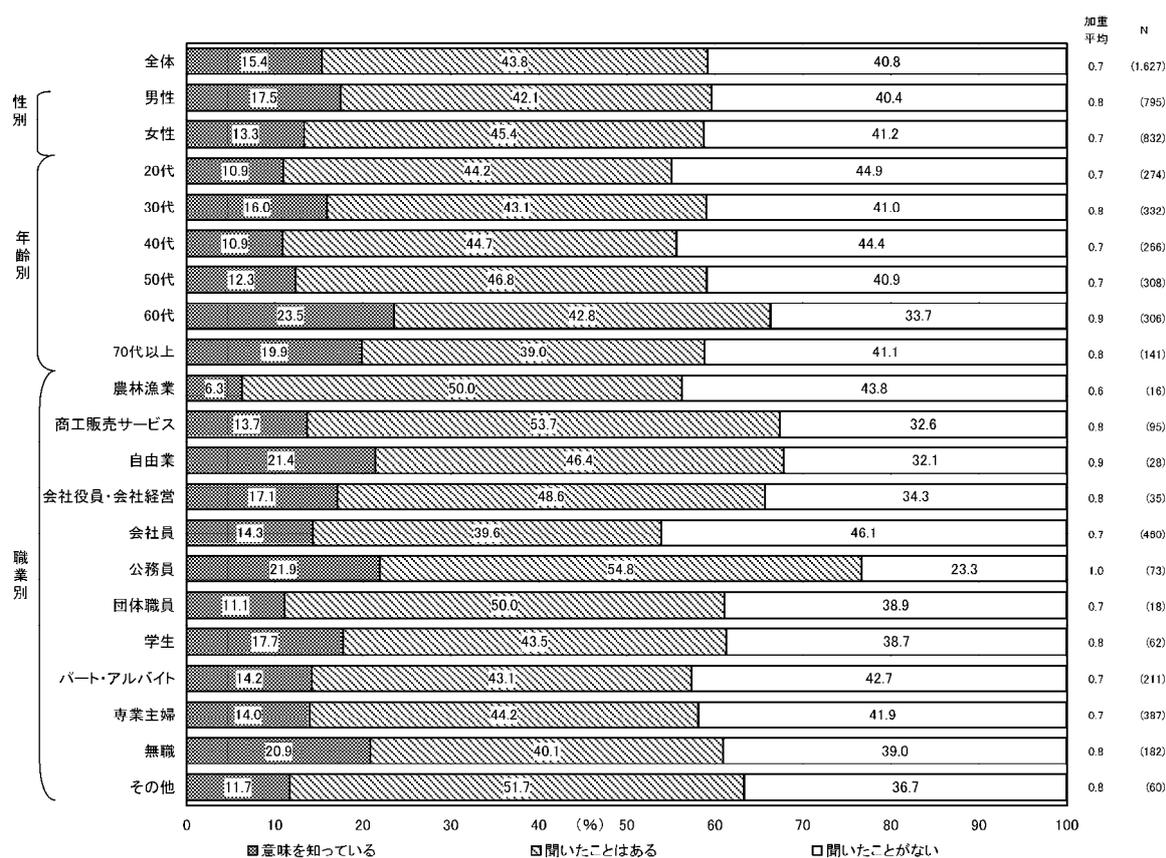
年齢別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は60代、70代以上で高く(24%、20%)、60代は認知度でも他の年代よりも高い(66%)。

職業別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は公務員、自由業、無職で高く(22%、21%、21%)、農林漁業において低くなっている(6%)。

地域別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は北海道・東北地方、関東地方でやや高く(20%、18%)、北陸地方、近畿地方で低くなっている(ともに 9%)。

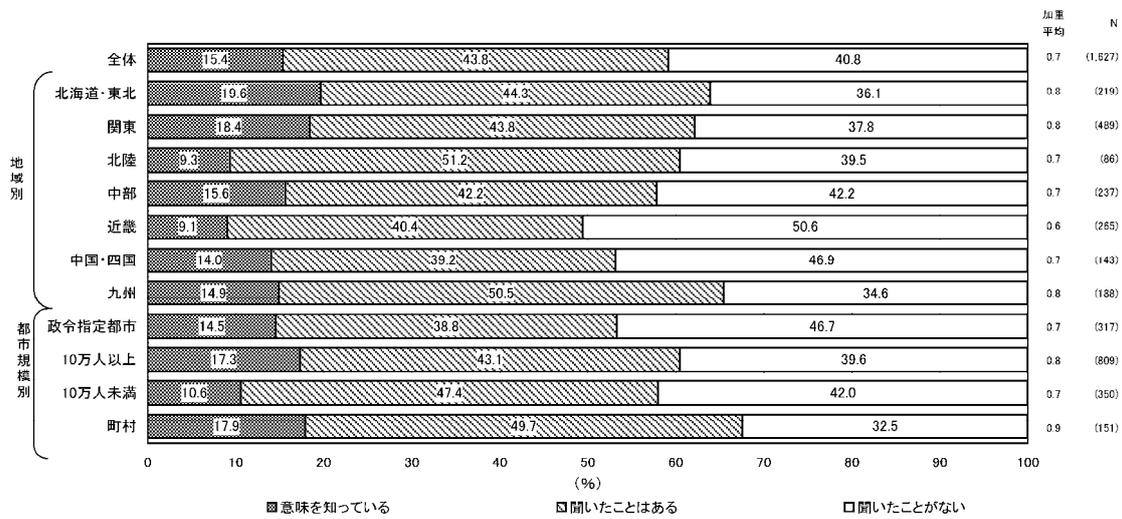
都市規模別では、「意味を知っている」と答えた人の比率は町村、10 万人以上の市で高く(18%、17%)、10 万人未満の都市で最も低い(11%)。

図表 2-17 用語の認知(エコツーリズム、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に 2 点、「聞いたことはある」に 1 点を与えて算出した。

図表 2-18 用語の認知(エコツーリズム、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。